

社会福祉法人あおば福祉会
おひさまっこ保育園
2023年度（第6年度）事業計画

はじめに

前年度は第三者評価を受審に参加し、職員一人ひとりが自分達の保育を振り返る機会になりました。受審結果を受け、今年度は小規模保育園として異年齢保育の特色が発揮していけるよう保育の追求と発展を目指していきたいと思えます。また、地域貢献事業として場所の提供や居場所づくりと通して、人が集い、つながりと喜びを感じられる機会になっています。職員と今後の地域福祉についての展望を語り合い、それを計画にしながら、地域の拠点としての役割が担えるよう、実践していける1年にします。

◆大切にしたい保育内容・特色

- (1) 身体づくりに向け、園外に積極的に出かけ、子ども達一人ひとりが身体の主人公になる。
- (2) 小規模保育園としての特徴を生かし、小集団・異年齢保育に取り組み、人と関わり合う力を育む。
- (3) 地域の拠点として場所を提供し、様々な人とのつながりを通して豊かな感性を育む。

1. こどもの入園予定

おひさまっこ保育園 定員:12名

(理事会当日現在)

クラス(対数)	定員	4月予定児童数	内支援児	新入園児数	継続児童数
0歳児(3:1)	3	3	0	3	0
1歳児(5:1)	4	4	0	2	2
2歳児(6:1)	5	5	0	2	3
合計	12	12	0	7	5

※給食は、おひさま保育園から搬入

2. 職員体制と職員の状況(新規採用・異動職員)

異動者 保育士 安藤 ひなた おひさま保育園より 異動

正規職員・・・4名 総主任1名 保育士3名

パート職員・・・6名

常勤パート職員・・・1名 保育士1名

短時間パート職員・・・5名 保育士2名・子育て支援員1名・警備1名・清掃1名

嘱託医・・・2名 なんばこどもクリニック (難波直樹小児科医師)

カワムラ歯科診療所 (河村忠成歯科医師)

3. 子どもの安全と健康・危機管理

(1) 危機管理に対しての継続的な学習と実践をする

- ① 保育参観日に大きな災害を想定し、保護者への引き渡し訓練を行う。
- ② 外階段から避難する訓練を行い、災害時にスムーズに避難できるようにする。
- ③ 策定した「安全計画」に基づき、非常対策訓練及び消火訓練を毎月実施し、リスクマネジメント委員会を中心とした点検とふり返しを行う。

(2) 日常に起こる事故やけがの検証を行う

- ① 総合管理システム「うえぶさくら」を活用し、ヒヤリ・ハットやインシデント・アクシデントの事案を収集し、分析と傾向対策を充実させていく。
- ② 窒息・誤飲を防ぐための給食提供や行事のあり方を検討し、万が一の対応について、救命救急研修を通して学習する。

(3) 保育環境・労働環境を守る

- ① 「施設設備のチェックリスト」を活用し、職場の安全管理を行えるようにする。
- ② 専門家による「新型コロナと今後」について学習会を企画し、適切な感染予防対策に講じる。

4. 保護者の願いに応え、子どもと共に育ちあう関係を大切に

(1) 保護者の要求や願いに応え、子どもと共に育ちあう喜びが共有できる

- ① 昨年度まとめた記念誌を活用し、園行事の「意義」や「思い」を保護者と共有する。
- ② 『おひさまカーニバル』を春に開催し、早い時期に保護者同士が関係を紡ぐ機会をつくる。
- ③ 園の行事や懇談会は、おひさま保育園と合同で行い、保護者同士が繋がり合う機会をつくる。
- ④ 太鼓サークル『陽（サン）』の活動や北支部スポーツ大会を通して、保護者と職員が連携を図りながら、文化的な活動を支援していく。また、保護者が主体となって企画運営できるよう関わる。
- ⑤ 心理に携わる方にも参画していただき、障がいのある子を持つ保護者同士の子育てカフェを再開する。
- ⑥ 体調不良児型の事業が開始のために人材確保をし、子ども達きめ細やかな健康管理に努める。

5. 地域に根差し、地域に必要とされる保育園をめざして（地域貢献事業）

(1) 地域に開かれた保育園をめざし、地域貢献事業に取り組む

- ① 住民主体ささえあい活動（通所型）「ぐんぐん元気塾」・高齢者うたごえサークル「ビビデバビデブー」・認知症の方と介護者が語り合える場「オレンジカフェ」・自治会の会議の開催場所、校区福祉会のお弁当配布のための場所の提供として、玄関入り口のスペースや3階を使用する。
- ② 豊中市子育て・子育て応援アプリ『とよふぁみ by 母子モ』や掲示板を充実させ、園で行われている地域活動の発信と周知を図る。

(2) 地域の教育機関・施設との連携する

- ① 地域ネットワーク会議に参加し、地域ニーズの把握や他機関との連携を図る。
- ② 豊中市こども相談課や中部保健センターと連携し、定期的な観察記録をしながら、モニタリング対象児の継続的な見守りを行う。

(3) 地域にとって大切な社会資源としての保育園をめざす

- ① 「熊野田校区福祉連絡会」「夕日丘自治会（さつき会・子ども会）」に参画し、地域の福祉向上のための役割を果たしていく（介護予防体操・オレンジカフェ・自治会等）。
- ② 子どもの居場所づくり「おひさまの家」事業を行い、学童保育後の生活保障のために支援を要する連携園のおひさま保育園の卒園児を受け入れる。また、在園児との交流の場としても位置付ける。また、長期休みには生活力を育んでいくことを目的に、『おひさまクラブ』に取り組む。

6. 職員の資質向上をめざして

(1) 「実践」と「学習」が結びついた研修を行う

- ① 職場の研修体系を整え、キャリア段階に沿った研修課題を明確にする。
スマイルサポーター研修受講（山内）
- ② おひさま保育園と共に乳児会議を位置付けていく。クラス責を中心に運営し、子どもの姿から学習と実践を積み重ねていく。
- ③ 総合管理システム「うえぶさくら」の機能を活用し、指導計画等をクラウド管理し、情報共有のデジタル化をすすめていく。
- ④ 専門性の向上を図るために、総括会議に研究者にも参加していただき、会議内容を充実させていく。
- ⑤ 不適切な関わりや虐待についての理解を深めるために、定期的な学習を位置づけ、子どもたちの人権を守る保育を追求する。

(2) 他園との交流を通して学び合う

- ① 豊中地域と北支部五園の交換研修を行い、お互いに保育の質を高め合う。
- ③ 豊中地域会議を定期的に行い、お互いの実践交流を図りながら、保育計画の立案や子ども理解につなげる。

(3) 講師を招いて研修会を実施する

- | | | |
|---------------------|-------------------|-------|
| ① 「理論と実践を結び付けて」 | 講師：長瀬美子 氏（大阪大谷大学） | 年 3 回 |
| ② 「場面記録から保育実践力を高める」 | 講師：杉山隆一 氏 | 年 3 回 |
| ③ 「デジタル社会と子どもの発達」 | 講師：未定 | |

(4) 保育実践提案

提案 第 6 2 回全国保育問題研究集会（仙台）「地域に開かれた保育活動」 菊池彩子

7. 中長期計画に関わって

(1) 人について

- ① 豊中地域の管理職で連携を図り、地域支部の体制を構築する。
- ② 豊中地域に事務職を配置し、業務一本化に向けた体制の構築を目指す。
- ③ 2024 年までに処遇改善加算の対象人数に向けたキャリアアップ研修の取得を終える。

(2) 事業について

- ① ホームページを更新し、スマホ対応や採用に向けた内容を充実させていく。
- ② スマイルサポーターを中心に、地域の子育て世帯を対象とした地域活動計画を具体化する。また、周知のための広報にも力を入れ、地域との関係づくりに励む。（おひさま保育園と共に）